

# 中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

## 学校教育目標

豊かに学び 認め合い 咲かせよう笑顔と満足の花

- 基礎・基本を身に付け、自ら問題を発見し、よりよく解決する力を育てます(知)
- 自他を大切に、豊かな体験を通して他者とともによりよく生きる力を育てます(徳)
- 自ら健康を保持・増進し、心身ともにたくましく生きる力を育てます(体)
- 自分の役割や働くことの意義を理解し、地域や社会のために他者と協働する力を育てます(公)
- 自分を見つめ、多様性を尊重し、共生する力を育てます(開)

## 教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

自分づくりに関する力  
問題発見・解決能力  
自分の考えを伝える力

## 具体化した資質・能力

- ・夢や希望をもち、なりたい自分や生き方を追求する姿勢
- ・問題を発見し、様々な情報を活用・選択しながら解決する力
- ・思いや考えを表現する力
- ・メタ認知と自己を理解する姿勢

## 中期取組目標

○子ども達の夢や希望を育みながら、まちと共に歩む学校づくりを推進します

- ・子どもたちが様々な学習や体験を通して多くの人やものと出会い、豊かに学べる学校づくりを目指します。
- ・人との関わりやつながりを大切に相手意識、目的意識を育て、子どもたちがお互いの良さを認め合い協力する喜びを実感し、共に成長していこうとする豊かな心を育んでいきます。
- ・学校・家庭・地域の中で自己有用感や多くの達成感を感じ、夢や希望をもち、なりたい自分に向かって努力し続ける意欲を高めていきます。

## 学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
学力向上	①基礎教科学力の向上…知識・技能の確実な習得を目指した指導を校内で徹底できるようにする。また、身に付けたことを活用する力を学力の校内の共通の捉えとしてもち、「自分の考えを伝えることのできる子」の育成を掲げ、授業改善を通して子どもの伸びを把握する。②非認知能力の育成…キャリア形成を担う能力という意識を校内で高める。数値では測ることのできない能力をどのように培っていくか年度内に具体方策を見出す。③子どもの実態分析と改善策の検討…学力・学習状況調査をもとに、前回調査と本年度調査の子どもの伸びを把握し、学校全体としての取組を実施する。
担当	学力向上推進委員会

学力向上に関わる本校の状況
<p><b>Aチュンチュン漢字テストの実施状況</b></p> <p>昨年度、4回の実施をした。実施する中で、見えてきたこととして100点満点を目指して、当日に向けて学習を進めようとする意欲に差があることが分かった。差が生じる原因としては、学習方法が分からないことや「勉強してもできない」などの学習意欲も関連していることが分かった。</p> <p><b>D読書推進活動の実施状況</b></p> <p>「学校図書館に行くことが好き」と答えている児童が学校全体の65%いる。特に低学年段階では割合が多い。低学年としては、定期的に学校図書館を利用する機会がカリキュラムにあることが要因としてある。一方で「1日にどのくらい読書をするか」については、学年が上がると読書時間が少なくなっている傾向がある。</p> <p><b>E自分づくりに関する力に関する意識の状況</b></p> <p>「自分のことが好き」「自分にはよいところがあるか」については学年によって意識のばらつきがある。特に高学年は、肯定的な意識をもっている児童が低いことが分かった。高学年においては、コロナ禍の制限から脱却を図り、現在は児童会活動や学校行事を活かして、一人ひとりが活躍できる機会を増やすことや自分を見つ直す機会の設定を具体的なプランで実施している状況である。</p> <p><b>※授業改善を中心とした重点研究</b></p> <p>「自分の考えを伝えることのできる子」の育成を主題に、「伝える内容」「伝える方法」「伝える目的」の3つが分かるように授業デザインを校内研究授業を実施し、職員の学校教育目標実現に向けた共通認識をもてるようにしてきた。どの学びでも、「読むこと・書くこと・話すこと・聞くこと・語彙の豊かさ」は必要なことである。教科を絞って国語科を中心とした研究授業を行い、研究を重ねている。R6は「伝え合うこと」で、自分の考えを広げたり、深めたりする子を目指して「～学ぶ目的を理解して、児童の主体性を育てる授業づくり」が研究主題となっている。</p> <p>研究主題の設定における子どもの実態は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・考えはあるが、伝え方が分からないため</li> <li>・授業で自分の考えをもてる子どもの割合が増えてきたため</li> <li>・どの時間でも自分の考えをだいたい伝えることができると子ども</li> </ul> <p>の割合が増えてきたため</p>

今年度の目標
<ol style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりが、粘り強く学習に取り組もうとする基礎づくりをすること。</li> <li>自分自身についての理解を深め、自分の考えを学んだことを活用して発揮できるようにすること。(自分の課題は何か、何が身に付いたか、できるようになったかを振り返り、次の行動に移せるようにする。)</li> </ol>
目標を実現するための具体的行動プラン
<p><b>上半期</b></p> <p><b>Aチュンチュン漢字テスト部会の行動プラン①</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>…目標設定や目標達成に向けた学習過程について、プラン改善を図る。年間4回の実施に向けた年間プランを作成する。</li> </ul> <p><b>B MIM部会の行動プラン①</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>…子どもの読みの基礎を築くようにするために外部研修へ参加する。低学年を中心に、語を語のまとまりとして捉え、読み・スキルの向上へつながる今後の具体的な支援策を検討する。</li> </ul> <p><b>C家庭学習分析部会①</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>…校内の家庭学習の実施状況を把握する。</li> </ul> <p><b>D読書推進部会①</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>…児童会活動を中心に、図書委員会として実施できる内容の精選をする。また、国語科と関連を図り、図書の時間の使い方について校内の実施状況を把握し、年間プランを作成する。</li> </ul> <p><b>E自分づくり部会②</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>…年度初めシートや運動会シートなど、年間プランに基づいて校内で実施をする。実施状況については、その都度、改善を図り、改良を加えていく。</li> </ul> <p><b>F振り回りの仕方改善部会②</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>…校内の各教科学習の振り回りの時間の使い方やワークシートの分析を図る。子どもたちのメタ認知する能力に関連して、自分自身の学びを振り返る効果的な指導の在り方についての検討を重ねる。</li> </ul> <p><b>下半期</b></p> <p><b>Aチュンチュン漢字テスト部会の行動プランの実施①</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>B MIM部会の行動プランの実施①</b></li> <li><b>C家庭学習分析部会①</b></li> <li>…校内で意図や学習量の調整を意識統一を図り、発達段階に見合った。家庭学習スタイルを確立する。保護者への家庭学習への理解を推進する。</li> <li><b>D読書推進部会の行動プランの実施①</b></li> <li><b>E自分づくり部会②</b></li> <li>…授業改善の視点で、特別活動のカリキュラムに位置付けながら実施を図る。</li> <li><b>F振り回りの仕方改善部会②</b></li> <li>…子どもにとって効果的な振り回りの在り方についての方向性を示し、校内での共通理解を図る。</li> </ul> <p><b>G全園学力・学習状況調査③</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>H横浜市学力・学習状況調査③</b></li> <li>…昨年度の学校として育てた資質・能力について関連する項目について分析を進める。昨年度と本年度の変容についてを、部会を中心に分析を進め、校内へ発信する。具体的には、重点取組授業改善部会や人権・特別支援教育部会、運動部会、教育課題検討部会、読書推進部会等に分析と今後の具体取組プランの策定を打診する。各学年の指導については、年度後半から始められる行動プランを策定し、実施を図るように促す。 ※授業改善を中心とした重点研究…年間数回の授業研究会を実施し、授業改善を図る。</li> </ul>

## 豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育 特別支援教育	①「認め合いのできる子」を育てることを目標に、すべての児童が安心して学級経営の推進をする。②すべての児童が過ごしやすく、学びやすくするために学校としてのユニバーサルデザインの推進をする。③個別の教育支援計画や個別の指導計画を有効活用し、個に応じた支援を推進する。
担当	人権・特別支援教育委員会

豊かな心に関わる本校の状況
<p><b>【YPアセスメント・教育相談】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受動的な児童が多い。</li> <li>・固定された友だち関係の中で過ごしている。仲の良い友だち以外を受け入れ難い児童がいる。</li> <li>・失敗や間違いに対して否定的な言葉を使うことがある。</li> <li>・人の役に立ちたいという思いがある。</li> <li>・低自己評価群に在る児童からの相談が多い。</li> </ul> <p><b>【人権週間アンケート】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が見つけた友だちのよさを伝えることに喜びを感じることができた。</li> <li>・学級のめあてに合わせて、肯定的な言葉で話すことを意識した。</li> <li>・ふだん関わる機会が少ない友だちと話すことのよさに気づいた。</li> <li>・積極的に友だちと関わったことで、その友だちの「らしさ」に気づくことができた。</li> </ul> <p>◆意図的に意識できるようめあて、取組を示すことで、友だちと関わることのよさやそこから友だちのよさに気づく児童が増える。</p> <p>◆授業中のグループ活動を多く取り入れることで、友だちのよさに気づいたり、自己肯定感を高めたりする機会が増える。</p> <p>◆どの子も安心できるような、グループ・約束・場づくりが大切。</p>

今年度の目標
<ol style="list-style-type: none"> <li>認め合いを大切に学級経営「知り合おう」「関わり合おう」「認め合おう」に取り組む。</li> <li>小雀小4つのUDを年間を通して取り組む。昨年度まとめたの子にとっても有効な支援を実践する。</li> <li>児童情報カルテ、個別の教育支援計画・個別の指導計画を活用し、一人ひとりにあった支援をしていく。</li> </ol>
目標を実現するための具体的行動プラン
<p><b>上半期</b></p> <p>①【人権教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ゴールは「認め合いができる学校」「知り合おう」「関わり合おう」「認め合おう」を意識した学級経営を行い、日常的に子どもたちの人権意識を高める。</li> <li>4月～7月「知り合おう」をテーマに、友だちのことをよく知るための活動を意識する。また、担任と子どもたちとの関係づくりを大切にす。</li> <li>YP期間(6月・10月・1月)に、道徳教材や横浜プログラムを活用し、認め合いの心を育てる。</li> <li>学校として以下のユニバーサルデザインに年間を通して取り組む。</li> </ul> <p>②【特別支援教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1.単元計画を提示する。1時間の授業の流れを提示する。</li> <li>2.ホワイトボードを活用し、1日の予定や提出物を提示する。</li> <li>3.教室前面をすっきりさせ、刺激量の調整をする。</li> <li>4.毎時間のめあてを板書する。</li> <li>・昨年度まとめた有効な支援の推進。環境整備を中心に発信していく。</li> <li>7月…「個別支援学級児童の進路について」の研修。</li> </ul> <p>③【個に応じた支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童情報カルテや個別の教育支援計画・個別の指導計画を活用し、よさや課題を知り、児童理解につなげる。</li> <li>・校内研修を行い、個別の教育支援計画・個別の指導計画を有効活用できるようにする。</li> </ul> <p><b>下半期</b></p> <p>①【人権教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>8月～12月「関わり合おう」をテーマに、目標に向かって協働的に活動する姿を意識する。友だちと関わりあう中で、よさを見つけ、それを伝え合えるような時間を作っていく。</li> <li>1月～3月「認め合おう」をテーマに、自分や友だちのよさを認め合ったり、考えの違いを、認め合う時間を作っていく。</li> <li>12月の人権週間では、「認め合い」をテーマに、めあてや活動を設定する。児童自身が変容に気づくための事前事後アンケートを行う。外部講師を招き全校集会を行う。</li> </ul> <p>②【特別支援教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部会から発信した環境整備を各学級で実践する。</li> </ul> <p>③【個への支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任、サポートルーム担当、児童・保護者面談等を通して、個別の教育支援計画・個別の指導計画の見直しを行う。</li> <li>・困り感のある子どもへの支援を検討し、職員で共通理解を図る。</li> </ul>

## 健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
安全教育 健康教育	①災害はいつでもどこで起きるかわからないので、訓練の前の事前指導を十分にしながら、目的にあった避難方法で避難ができるようにする。②学校生活を安全に行うように呼びかけ、学校でのけがの件数を減らせるようにする。学校保健委員会では「規則正しい生活」を年間のテーマとし、学校全体で取り組めるようにする。③体力向上に向けた取り組みを引き続き行う。
担当	健康・安全教育委員会

健やかな体に関わる本校の状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市平均と比べ、朝食を食べている児童が多く、市の平均を超える結果となった。また、8時間未満の睡眠は昨年同様、全体の40%を占め、市の平均を下回った。</li> <li>・運動時間は、高学年より低学年の方が多く、低学年・高学年ともに市の平均を下回る結果となり、運動時間が短くなっている。</li> <li>・体力テストの結果を見ると、20mシャトルラン、反復横跳び、上体起こしが市の平均より下回っている。新型コロナウイルスの影響か、一昨年の本校の結果よりも数値が下回っている。</li> <li>・体育の授業では、学習カードや場の設定を工夫し、身につけるべき指導事項を意識できるようにする。他教科との関連では、家庭科で1日の生活リズムの大切さを理解し、運動に取り組む時間や睡眠時間の見直しを図る。</li> </ul>

今年度の目標
<ol style="list-style-type: none"> <li>基本的な訓練から発展した避難訓練へ(予告なし訓練等の実施→職員の誘導訓練)</li> <li>規則正しい生活をおくるための意識の定着</li> <li>体力向上のための生活習慣(食事、運動)の定着</li> </ol>
目標を実現するための具体的行動プラン
<p><b>上半期</b></p> <p>【安全教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>火災・地震等月1回程度の避難訓練を行い、訓練後のふりかえりアンケート内容を部会で検討し、訓練をより実際に合わせたものに改善して行うようにする。繰り返し訓練をすることで、児童一人ひとりの自己回避能力を高めていく。火災では、防火シャッターを使用し、火災時の状況を体験することができるようにする。集団登校時に地区別に校庭に集合し、集団下校時の集合場所の確認をしたり、登下校の安全を確認したりする。</li> </ul> <p>【健康教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①児童へのアンケートを実施するなどして児童の生活リズムの現状と課題を把握し、取り組みの内容を検討する。保健委員会が中心となり、決定した取り組みを推進する。</li> <li>②体力向上のために、栄養バランスの取れた食事と、日々の運動に子どもの気持ちに向けていく。食事面では、給食スタンダードに基づいて、安心・安全な給食指導を行う。改善の必要がある場合は、月1回のカリマネ部会で検討し、打合せなどで共通理解を図る。また、運動面では、児童会・運動委員会の活動を通して平素から体を動かすことの大切さを子どもに意識づけていく。</li> </ul> <p><b>下半期</b></p> <p>【安全教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な想定で行う月1回程度の避難訓練(地震・火災・不審者・第二次避難・清掃中・中休み中)を行い、訓練後の振り返りから次回の訓練をより実際に合わせたものに改善して行うようにする。繰り返し、訓練をすることで、児童一人ひとりの身を守る力を高めていく。清掃中の訓練では近隣の教室に避難したり、声を掛け合って避難するなど、職員が不在の場合でも臨機応変に避難ができるような内容の設定をする。上半期より具体的な行動をとる機会を増やす。</li> </ul> <p>【健康教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①取組の中間振り返りを行い、内容を改善していく。第2回学校保健委員会では、より児童の意識向上につながる活動や取組のまとめを行い、次年度へつなげる。</li> <li>②食事に関して、生活科で育てた野菜を家庭で食べることや家庭科の調理実習、給食委員会による「給食週間」の取組の中で、食事における栄養バランスに対する意識を高めていく。運動に関しては、運動委員会の活動である「マラソン週間」に全校で取り組み、平素からの体力向上を図っていく。</li> </ul>